

第3回

湯崎知事と本音で語る 「欲張りライフ懇談会」 (広島市)

と き 平成29年6月18日(日)
ところ 安佐南区民文化センター

目 次

	頁
1. 「ひろしまさとやま未来博2017」について……………	1
2. 湯崎知事が語る広島県が目指す「欲張りなライフスタイル」 ……	3
3. あなたの周りのよくばりさんの「欲張り自慢」	
欲張り自慢①……………	8
欲張り自慢②……………	12
4. 谷原さんと知事によるトークショー……………	17
5. 閉会挨拶……………	39

広 島 県

1. 「ひろしまさとやま未来博 2017」について

○司会

みなさま、本日はようこそお越しくございました。開会前のこのお時間をちょうだいいたしまして、広島県地域政策局中山間地域振興課の森久敬太さんにお話を伺います。森久さん、今日はよろしくお願ひします。大きな幟と一緒にですね。

●森久

しっかり PR させていただきます。

○司会

この幟、見たことあるという方もたくさんいらっしゃると思います。みなさんには VTR からご覧いただきましたが、とにかく景色がきれいですね。

●森久

そうですね、広島の里山にはたくさんの魅力があることを PR させてもらいたいと思っています。

○司会

VTR に出ているみなさんがいい顔をしていらっしゃいますね。森久さん、『ひろしまさとやま未来博 2017』というのはどのようなものなのでしょうか。

●森久

『ひろしまさとやま未来博 2017』は、県内の 19 の市や町を舞台にした新しい形の博覧会です。特定の会場は持たないんですが、各地でそれぞれ実施されるイベントが主役になります。広島の里山には、美しい自然、豊富な食材、人と人のあたたかいコミュニケーション、培われてきた歴史や文化など、色んな魅力があると思います。そうした魅力に共感してくださる人を増やしていきながら、実際に自分のこととして関わってくださる人を増やしていきたい。そういった方を含めて、みんなで広島県の中山間地域を盛り上げていこうというのが『ひろしまさとやま未来博 2017』の取り組みの目的です。

○司会

広島に住む私たちが里山の新たな魅力をもっともっと気づいていく、発見していこうということですね。現在進行中のプロジェクトにはどんなものがありますか。

●森久

1 つは県内の中山間地域 371 箇所の魅力的なスポットを自転車で回っていただく『さとやまソーシャルライド』というイベントが現在進行しております。県内の各地を回っていただいて、専用のアプリを使って情報を上げていただくことによって、ポイントをゲットするという形で、そのポイントに応じて豪華な賞品などが当たるチャンスがあるというイベントです。

○司会

イマドキって感じですね。これから始まるプロジェクトもあるんですね。

●森久

先ほど紹介した『さとやまソーシャルライド』の他にも、現在進行中のイベントとして、

地域の方々が主役になり、自分の地域で手作りのイベントを実施する『ココロザシ応援プロジェクト』があります。

これから始まるものとしては、9月なので少し間が空いてしまうんですが、神石高原町の方で『さとやま未来展』というプロジェクトを検討しております。中味についてはまだこれから詰めていく部分もありますが、地域づくりを実践する方や地域づくりの事例の紹介、親子で楽しめるワークショップなども予定しております。

もう1つが9月23日に安芸太田町で開催される『さとやまスマイルラン』というイベントです。このイベントはシドニーオリンピックの金メダリストの高橋尚子さんが広島に来られて、真夏のスキー場のゲレンデを走っていただくというランニングイベントになります。

○司会

斬新ですね。

●森久

そうですね、新感覚のイベントになると思います。

○司会

今年3月にスタートしましたが、これからも続々とイベントがあるという感じですね。中でも森久さん、この『ココロザシ応援プロジェクト』というのは、ずいぶん盛り上がりそうですね。

●森久

これまで地域の方々が手作りで行われてきたイベントをさらにもう少し多くの方に来ていただけるように後押しをさせてもらいながら広めていくというのが趣旨になります。県内の19の市や町で毎週のように何かのイベントが開催されております。今日、多くの方が持っている水色のガイドブックを見ていただいて、ぜひ足を運んでいただければと思います。

○司会

イベント情報はガイドブックの他には、どうすれば手に入れることができますか。

●森久

今日お渡ししたガイドブックはお住まいの地域の市役所、公共施設、道の駅やサービスエリアなどでも手に入れることができます。また未来博のホームページを設置して、最新情報を随時上げていくようにしておりますので、確認をしていただければと思います。

○司会

本日、ロビーでは『ひろしまさとやま未来博 2017』のPRブースも開設しております。「ココロザシ応援プロジェクト」の34YATAI(ひろしま屋台)ではパンなどの販売もありますし、夏のイベント情報のご案内もあるということです。ロビーで開催中のPRと特産品販売は懇談会終了後、午後4時30分まで出店しておりますので、ぜひこの機会にお立ち寄りください。森久さん、広島県が誇る美味しいものもたくさん集まっているようですね。

●森久

ぜひ帰りに買っていただければと思います。

○司会

今日のお土産にいかがでしょうか。今日、この時間は、森久敬太さんに『ひろしまとやま未来博 2017』について伺いました。それでは開会までもうしばらくお待ちください。

●森久

ありがとうございました。

2. 湯崎知事が語る広島県が目指す「欲張りなライフスタイル」

○司会

あらためまして、みなさまこんにちは。本日は『欲張りライフ懇談会』へ、ようこそお越しくださいました。「あら、会場を間違えたかしら」と戸惑っている方がいらっしゃるかも知れませんが、ご安心ください。ただ今より、『欲張りライフ懇談会』を開会いたします。私は本日の司会進行を務めさせていただきます、広島 FM パーソナリティーの藤井香苗と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日は日曜日の昼下がり、沢山のみなさまにお集まりいただきましたけれども、なぜ私がウクレレを弾きながら登場したか、ご存知の方いらっしゃいますでしょうか。いらっしゃらない。実は私が担当しておりました広島 FM の朝の番組、モーニングアライブ・フライデーの中の『聞いてよ！私の欲張りライフ』というコーナーがあり、昨年10月から3カ月間に渡って、かねてから憧れていましたウクレレにチャレンジをいたしました。ちょうどその時に世界的なウクレレ奏者、ジェイク島袋さんのライブを拝見いたしまして、番組の中でジェイクさんにインタビューをさせていただく機会もあったのですが、それが後押しになりました。3カ月間は亀のような歩みで、3歩進んで2歩さがるという感じで、少しずつ練習を積み重ねました。最終的には公共の電波を利用いたしましてスタジオ生ライブで演奏しました。先ほどちょっとご披露いたしました映画でもお馴染みのムーンリバーを演奏するというゴールにどうにかたどり着くことができました。ということで、私もこの欲張りライフをウクレレで実践した一人なんです。

みなさんは色んなところで、この『欲張りなライフスタイル』を目にしたり、耳にしたりされる機会も増えてきたと思いますが、仕事と暮らし、どちらかを犠牲にして、どちらか一方だけを頑張るのではなく、仕事も暮らしも、どちらも100%欲張る。そうすることで、仕事も暮らしもいい循環にしていこうというのが、広島県が掲げる『欲張りなライフスタイル』です。

さあそれではこの『欲張りなライフスタイル』について、もっと分かりやすくこの方に教えていただきましょう。広島県の湯崎英彦知事です。どうぞお入りください。大きな拍手でお迎えください。

●湯崎知事

みなさん、こんにちは。今日は『欲張りライフ懇談会』によろこそおいでいただきまして。藤井さんもウクレレの演奏、どうもありがとうございました。

○司会

ありがとうございます。ものすごく緊張しました。

●湯崎知事

チャレンジしてみてもいかがでしたか。

○司会

私は仕事と、今、小学6年生の息子がいるので子育てと、それから暮らしということで、その3本柱で正直、時間的にも気持ち的にもいっぱいいっぱいだと自分でセーブしていたところがあったんですが、実際にウクレレを始めてみると時間って意外と作れるものだというのを発見しました。

●湯崎知事

実はぼくもジェイクさんからウクレレをもらって、「次回に会うまでに弾けるようにしとけ」と言われました。

○司会

この秋にジェイクさんは広島に来られますよ。知事、大丈夫ですか。

●湯崎知事

そうなんです、やばいですよね。あと半年で弾けるようになるというのはなかなか大変だなと思っているんですよ。

○司会

大丈夫ですよ。欲張ってください。

●湯崎知事

そうですね、「欲張れ、欲張れ」と言っているんだから、ぼくも欲張らないといかんですよね。

○司会

私は隙間時間をどうにか見つけて、効率よく進めることがちょっと上手になったかなと思っています。ウクレレは、ヘタなりにすごく癒される音です。おまけにゴールにたどり着いた時に湯崎知事から「よく頑張りました」という感謝状までいただきまして、チャレンジして本当によかったと思いました。

●湯崎知事

ありがとうございます。私の賞状はたいしたことないんですけどもね。人はそれぞれに仕事と暮らしの中で抱えている希望があると思います。それを諦めるんじゃなくて、かといって、とにかく頑張りましょう、というのでもなく、例えば、仕事で無駄な時間を見つけて工夫をすれば色々と出来るが増える。仕事の効率化も図りながら、空いた時間を暮らしに回すことができたなら、どちらも充実するということです。みなさんお一人お一人の希望がかなうように行政としても後押しをしていきたいというのが『欲張りライフ』なんです。

○司会

ではその『欲張りライフ』について、もう少し詳しく教えていただけますか。

●湯崎知事

それでは、スライドを使いながら進めます。

改めて広島県が目指しています『欲張りなライフスタイル』についてご説明をさせていただきます。

暮らしを犠牲にするような働き方。これは日本人がよくやっていると思うんですが、あるいは暮らしの大変さで仕事を諦めている。これは女性の方に特に多いと思います。例えば、通勤時間が非常に長くて、残業で疲れて趣味が続けられない。あるいは子どもが大きくなって仕事に復帰したいけれど、ご主人も忙しいので諦めた。そういうこともありますよね。東京では通勤も大変ですし、保育所もなかなか入れない。子育ての不安も影響して東京は非常に出生率が低いです。でも広島なら仕事も暮らしも両方頑張れるんじゃないか、無理だと思わないで頑張ってみよう、というのが、みなさんにお伝えしたいメッセージです。

暮らしが充実すると視野が広がります。斬新な発想や組み合わせが生まれて、効率よく仕事ができます。その結果、仕事の生産性が上昇して、ゆとりが生まれる。それが暮らしの充実につながる。それがまた仕事の生産性に返っていくということです。つまり、欲張れるような好循環が生まれるんじゃないかと思っています。広島県はそのような、どちらも諦めない欲張りなライフスタイルを応援していきたいと思っています。

実は広島県には『欲張りライフ』を実現できる強みがあると思っています。ひとつは、都市と自然がとても近いところにあるということです。例えば、自然豊かな北広島町。北広島町から広島市内に通っている方は沢山いらっしゃいます。北広島町に住んでいても仕事の後にカーブを見ることができます。逆に都会に住んでいても1時間ちょっとでスキー場やゴルフ場に行くこともできる。また古くからのものづくり技術をベースに、デザイン性や付加価値の高い製品を数多く生み出す、イノベーションを生む土壌もあります。もうひとつはファミリー・フレンドリーという言葉が我々は使っているんですが、例えば広島県では、仕事の帰宅時間が東京に比べると1時間も早いんですね。つまり広島では仕事が終わって家族みんなでお晩ご飯を食べることができる。広島では当たり前と思われるかも知れませんが、東京だとそれはなかなかできないんですね。特に子どもが小さいとご飯も

早いのでとてもその時間には間に合わないという人がほとんどです。

仕事や暮らしに対する希望は一人ひとり異なると思います。一生の中で変わることもあると思います。今はしっかり仕事をしたいとか、あるいは子どもとの時間をたっぷり取りたいといったような時期もあると思います。もちろん仕事も趣味も全力投球したいという欲張りさんも沢山いらっしゃいます。そんなお一人お一人の仕事や暮らしに対する希望を広島でならかなえられる、広島でかなえよう、そう感じることができる社会にしていけるために広島県では教育関係の充実、あるいは働き方改革といったような様々な取り組みを進めているところです。

その背景にあるのは広島県の人口がこのまま進むと大きく減少してしまうことです。これはみなさんもお聞きになったことがあると思いますが、広島県の今の人口は約284万人、ところがこのままいきますと2060年には190万人になります。90万人ぐらい減るということです。これは広島市の人口がほとんど消えて無くなるぐらいの大きな数です。一方で今より沢山の子どもがほしい、あるいは広島に住み続けたいという方も沢山いらっしゃいます。そういう方々の希望を実現できるような環境づくりを通じて、人口減少を少しでも押しとどめていきたいと思ひますし、またその必要があるということです。

人口がどんどん減っていくと経済や消費が縮小して、県民生活にも非常に大きな影響を与えることとなります。例えば、業績は好調だけど後継者がいないので廃業したり、子どもが減って本や駄菓子売れなくなったり。駄菓子屋さんがほとんどなくなったというのはみなさんもお存知だと思います。

人口減少が進む中でも効率的に働いて暮らしの中の消費活動を拡大するということができれば、地域に活気を生むこともできるわけです。そんな思いから生まれたのが、仕事も暮らしも充実させる欲張りなライフスタイルということです。

これまで県内各地で『欲張りライフ』を実践している方からお話を聞いてきました。世界で通用するカキの生産に取り組んで、海外への販路を広げている方や、学生と一緒に古民家を改修している方など、すでに欲張りなライフスタイルを実践されている方が沢山いらっしゃいます。それらのみなさんは、さらに頑張るために様々な希望を持っておられました。

次は会場のみなさんの番です。お一人お一人、色々な仕事や暮らしをお持ちだと思いますが、それぞれの欲張りなライフスタイルを見つけていただければと思います。今はこれをしなければいけないから、こっちは諦めようと自分で枠を作ってしまう前に、あれもこれもやっつけていいんだと考えていただければと思います。それはあくまでも無理をしてそうしようということではなくて、それが出来る環境を作っていこうということです。行政など色々なお手伝いするところもありますので、みんなで一緒にそういう環境を作って、欲張りライフを実現していきましょう。県民みんなで推進する広島発の欲張りなライフスタイルを全国に広げていければと思っています。

○司会

湯崎知事、ありがとうございました。改めて色々具体的なことを教えていただきます

と、なんだかもっと欲張っていいんだよ、欲張りんさい、と自分自身に言ってやりたいような気持ちになってきました。

●湯崎知事

その通りです。この話だけ聞くと、それは大変じゃないか、そんなにエネルギーはないよ、と思われるかも知れませんが、そういうことじゃないんですね。頑張ろうと言っているわけではなくて、むしろ仕事がより効率的になることで楽になるということだと思っただけです。逆に言うともっと楽をしようということだと思います。そのためには工夫がいると思います。頑張るんじゃなくて工夫をしよう。暮らしの中でも色んな工夫ができるんじゃないか。子育てでも、あるいは介護でも色々あると思います。もっと楽しいことができるように工夫していこうということです。

○司会

おそらく今日、お集まりのみなさんはその予備軍でいらっしゃるんじゃないでしょうか。私も先ほど披露させていただきましたウータン、ウータンというのはマイウクレレのことです。ウータンを弾くことで仕事も暮らしも、より充実させていきたいなど、もっと欲張っていきたいなと思っています。

●湯崎知事

ウクレレに名前があるなんて、とっても楽しんでいるんですね。ぼくもどういう名前にしようかと考えてしまいますね。本当に素敵なので、ぜひ続けていただきたいと思います。今日はこの後、藤井さんの他にも欲張りライフを实践されている方をお二人、ご紹介したいと思います。

○司会

楽しみです。そしてプログラム後半のトークショーでは、俳優の谷原章介さんをお迎えして、テレビではなかなか見られない谷原さんの素顔に知事が迫ってくださるということですね。

●湯崎知事

プロの司会者でもある谷原さんに、ぼくが迫るのは大変そうですが頑張ってみます。

○司会

めったにないアタックチャンスですから、よろしくお願いたします。

ではこの後は、『あなたの周りのよくばりさんの欲張り自慢』と題しまして、仕事も暮らしも充実したお二方にご登場いただきまして、そのご自身の『欲張りライフ』についてご紹介いただきます。その後、舞台転換をしまして、谷原章介さんと湯崎知事のトークショーに移ります。また本日の進行は、手話通訳と要約筆記でもお伝えしています。手話通訳

は広島県手話通訳問題研究会のみなさま、要約筆記は広島市要約筆記サークルおりづるのみなさまにお願いしております。どうぞ大きな拍手をお送りください。よろしく願いいたします。

それではまずは、『あなたの周りのよくばりさんの欲張り自慢』。お一人目は、広島銀行の木下麻子さんにご登場いただきましょう。どうぞ大きな拍手でお迎えください。

3. あなたの周りのよくばりさんの「欲張り自慢」

欲張り自慢①木下麻子さん

●木下

ただ今ご紹介にあずかりました木下と申します。私は先ほど湯崎知事のお話がありましたけれども、1年前までは東京で生活をしておりました。それこそ満員電車がすごくて、通勤時間中の電車の中ではカバンを落としてもそれが落ちないというような、そんな環境から、非常に自然豊かな安佐北区に移住しまして、今ここに写っています夫と、子ども3人とともに広島の生活を満喫しております。仕事は広島銀行で人事の仕事をしていただいています。仕事柄、広島県さんと結構接点があり、そんな流れから今日はこのような貴重な機会をいただきました。改めてどうぞよろしくお願いいたします。

本題に入る前に、私にとって『よくばり』とは、どういうことを表しているのかについて軽くふれたいと思います。私にとって『よくばり』とは、自分らしい幸せを諦めないことです。先ほど知事が、「大変になることではないんだよ」とおっしゃっていましたが、まさに私もそう思っています。何もかも頑張っていっぱいになるというよりは、自分らしい幸せのカタチを諦めない。そんなことができれば『よくばり』な生活を送れるんじゃないかなと思っています。

じゃあ、幸せとは何なのか。慶応義塾大学の前野教授という方が幸せな人に共通する因子ということで、この4つのポイントを研究発表されています。1つ目が『自己実現と成長』。2つ目が『つながりと感謝』。3つ目が『前向きと楽観』。そして4つ目が『独立とマイペース』です。私自身は非常に共感するものがありましたので、今日はこの後の話をこの4つのポイントに沿ってお話したいと思います。

まず『自己実現と成長』です。シナジーで可能性は広がり続ける、と書かせていただきましたが、先ほどの話にもありました通り、『よくばり』な生活を考えるに当たって、プライベートと仕事の両立というのは、ひとつの大きなテーマかと思います。その時によく使われるのが、ワークライフバランスという言葉ですね。実は私、この言葉があんまりしっくりきていなくて、何故かと言うと、このグラフにもあるように、バランスという、どちらかが多過ぎちゃダメだよと、合わせて100%になるように調整しようね、みたいなイメージがないですかね。私にとっては、ワークとライフってそういう関係ではなくて、どちらかというシナジーという関係なんじゃないかなと思っています。シナジーというのは相乗効果という意味です。例えば、私は子どもを産んだ後、ずっと人事の仕事をしているんですが、人事の中でも、両立支援とか、女性活躍推進とか、そういうテーマを担

わせていただくことが多くなりまして、自分自身のキャリアのひとつの武器を持たせてもらったな、というふうに思っています。逆もありまして、プライベートで NPO 活動とか、ボランティアなどもさせていただいているんですけども、そういうところで得たネットワーク、そのネットワークがものすごく仕事に生きているというふうにも感じています。こうしたカタチで仕事があることによって、より生活が豊かになる。生活が豊かになることによって、仕事のレベルが上がるといったことで、自分自身の可能性を 100% というふうに割り切らずに、120%、130% というカタチで広げていきたいなというふうに日々工夫をしております。

続いて『つながりと感謝』です。ここに写っているのが、私が日々生活をしている家族です。結構、多いと思われるかも知れませんが、まずここに座っている女性が私の義理の母です。義理の母は、私の子どもたちの保育園の送り迎えを毎日一手に引き受けてやってくれています。それからここに座っている母と父は、東京に実家があるんですが、年間 10 回以上、広島と東京を往復してくれていまして、私の子どもたちの食事だとか、宿題の世話をしてくれています。子どもたちにとってこの 3 人が、実は私たち両親以上に親らしい存在になっているんじゃないかなと思っています。その他に写っているのが、私の妹や義理の兄弟です。彼女たちがいてくれることによって、家族だけでは得られない視点を与えてくれたり、すごくいい風通しをしてくれています。こうしてみんなが集まることによって、本当に幸せな家族があるなというふうに思っています。こんなわがままな、それこそよくばりな私たち家族に、こうやって一緒に寄り添ってくださることを心から日々、感謝しているというのが今の生活です。

次に『前向きと楽観』です。どうしても自分の人生の役割や仕事が増えると、その分ストレスとかプレッシャーはつきものだと思います。そんな中でも私が前向きでやっていられるのは、朝の時間がものすごく大きな役割をはたしてくれています。毎朝、1 時間だけ早く起きて、一人だけの時間を作るようにしています。そこでやっているのが、今流行のマインドフルネス、瞑想です。グーグルさんが開発したアプリを使って、毎朝 10 分間瞑想をして、その後に読書をしています。これがどういう役割を果たしてくれているかということですが、瞑想があると、なんていうんでしょう、プレッシャーとかストレスがガーっと自分にかかってきても、スッと自分の心の安全な場所に移動できるんですね。結構、ストレスとプレッシャーをいい具合に忘れられるんです。そういうことがあることによって自分の気持ちが常に維持される。それから、読書があることによって、日々の忙しいタスク、仕事だったり、家のことだったり重なっていた時も、それをスッと整理をして、優先順位をつけられる。そういう効果があるなと思って、ここ何年も自分の朝の習慣というのを大事にしています。

次に『独立とマイペース』です。私はこのことが人の幸せと相関関係があるというのが一番「へー」と思いました。私は人生っていうのは、ぬり絵じゃなくて、真っ白いキャンバスだと思っているんですね。なので、常識、例えば、仕事があったら家庭のことは、ちょっと諦めるしかないとか、そういう常識にとられることなく、自分が本当に得たい、そういう人生の絵ってどういうものなのかなということのをゼロベースで考えて描く。そん

なようなことを意識して日々過ごしておりますので、この前野教授の研究を聞いて、ああ、そういうことももうひとつのポイントだったのかな、なんて感じております。

ということで、私が欲張りに自分らしい幸せを追求する上で、この4つのポイントに沿って、日々、まさに広島県が提示する『欲張りなライフスタイル』というところを追求していますし、こちらからもどんどん自分らしい自由画を描いていきたいなというふうに思っております。

私の話は以上です。ご清聴ありがとうございました。

○司会

木下さん、ありがとうございました。どうぞ前にお越しく下さい。木下さん、相当の欲張りさんでいらっしゃいますね。

●木下

先ほど湯崎知事から「工夫が必要だ」という話がありましたけど、私の工夫が何かといったら、「頼ること」なんです。今日は会場に家族とか親戚も来てくれています。

○司会

ご一族が来ていらっしゃいますか。

●木下

私はみんなに頼りまくっています。

○司会

うまく頼る、甘える、ということですか。

●木下

うまく頼れているか分かりませんが、思いっ切り甘えています。

○司会

「麻子ちゃんのためなら、がんばってあげよう」という方が沢山いらっしゃるということですね。

●木下

そんなふうに思っていてくださるなら、本当にありがたい限りですね。

○司会

このライフスタイルを発見できたのは、何かきっかけがあったんですか。

●木下

夫の実家の広島に来ることが決まった時、最初は正直、自分の親との生活を諦めなくてはいけない、自分のキャリアも諦めなければいけないと思いました。でもやっぱりそれじゃイヤだと思ったんです。本当に選択肢はそれしかないのか、半年から1年ぐらいさんざん悩んで、相談して、まああんまり一般的じゃないかもしれないけど、みんなで合意してこういう形を追求しようということになりました。私の親は東京と広島を年間10回以上も往復するので結構大変だと思います。私の両親が住んでいるのは、私の義理の母の家の一角なんですよ。

○司会

えっ、同居してらっしゃるんですか。

●木下

そういう環境を義理の母が作ってくれたのも本当に柔軟な発想ですよ。みなさんの判断とか考えがあって、今ここに至るんだなと思っています。

○司会

みなさんは元々柔軟だったのか、それともお互いに影響し合っただけなのか、そのあたりはどうですか。

●木下

最初は「えっ、二重生活」みたいな驚きでした。「そんなことは考えたこともなかったよ」とも言われました。だから最初からそういう発想があったというよりは、どうやったら欲張れるかという話です。どうすれば両方を得られるかと考えた結果の形ですね。

○司会

なるほどそうですか。私が一番聞きたいのは、効率のいい時間の使い方。恐らくみなさんもそうだと思います。木下さんにだけ1日が50時間ぐらいあるわけじゃないですよ。

●木下

時間の使い方は、先ほど申し上げたようにみんなに頼りまくっているんですけど、自分の中の工夫としては、仕事はすごく緻密に計画します。15分刻みです。15分でこれやるって決めて15分で出来ずに30分かかったら、30分かかったと全部記録します。そうすると、この仕事はこれぐらい時間がかかるんだという見積もりができます。そうやって自分の仕事の効率性を高める工夫は日々しています。一方で家庭のことは計画しません。出かけようと思ったら子どもが牛乳をこぼしたとか、おもらししちゃったとか、そういうことがあるじゃないですか。だから家庭のことに關しては出来るだけ計画しない。

○司会

真逆なんですね。

●木下

そうですね。そこは切り替えて、時間との向き合い方も変えながら過ごしていますね。

○司会

色々とトライしていく中で、一番自分らしい、また家族らしい時間の使い方が出来るようになるということなんですね。

●木下

そうです、その通りです。

○司会

仕事の時間は小刻みに、そして家では割と大雑把にという、この大らかさと緻密さ、この対照的なところがポイントなのかもしれませんね。仕事と家庭の時間の切り替えをしながら、お互いがいい状況、影響し合っている部分というのはどんなところですか。

●木下

人間は物事を対比で感じる性質があるらしいんですよ。

○司会

比べちゃう。

●木下

その差、ギャップでうれしいとか悲しいとか思うらしいんですね。それこそ日々のこと
でいうと、日中は子どもたちに会いたくてたまらない。だから家に帰ったらたった2時間
でも、その時間がすごく濃いものになりますよね。

○司会

長さじゃないんですね。

●木下

そう、長さじゃないと思います。仕事も、これだけ色んな人に支えてもらってやってい
るんだから、誇りが持てる仕事をしようと思います。自分自身の襟が正されるというか、
気持ちの面にも影響していると思います。

○司会

甘えるところは甘えて、でも甘えているんだから誇れる仕事をしようということですね。

●木下

そうですね。世のため人のためになる仕事をしようという気持ちになりますね。

○司会

お返しをしていこうということですね。本当にいい循環になってらっしゃいますね。

●木下

本当にそうですね。

○司会

木下さん、今日はどうもありがとうございました。

●木下

ありがとうございました。

○司会

木下麻子さんにどうぞもう一度大きな拍手をお送りください。ありがとうございました。
甘えるところは甘えてというのが、ちょっと目からウロコという感じでした。まずは木下
麻子さんの『欲張りライフ』をみなさんにしっかりと自慢をしていただきました。

続きましてはお二人目のよくばりさんです。ポナママの平井美香さんにご登場いただき
ましょう。どうぞ大きな拍手でお迎えください。

欲張り自慢②平井美香さん

●平井

はじめまして、こんにちは。東広島市で子育て情報誌を作成している『ポナママ』の平
井と申します。木下さんの話がすご過ぎて、私は今、なんでここに立っているんだろうっ
て思っています。人前で話をするのが本当に苦手で、こんな場所に立ってお話することが
人生の中でなかなかないので、とても緊張しています。本日はどうぞよろしくお願いま
す。私は生まれも育ちも東広島市で、県外で暮らしたこともなく、これまで広島県内で何
不自由なく暮らし、それほど孤独さというものも感じることなく過ごしてきました。その

ため出産してから子育て支援センターなどに足を運ぶと、地元でずっと生活してきた私が、自然とたくさんママたちの相談役になることが増えて、相談に乗っていくうちに、たくさんママが子育てしていく上で多くの悩みがあることを知り、県外、そして市外在住者は孤独と戦っているんだなということに気づかされました。そういったこともあり、現在は安佐南区にある、おうちスタジオ・カシュカシュクッキーに勤務しながら、4ヵ月に1度、そんなママたちの力に少しでもなれたらいいなど、東広島市の子育て情報誌『ポナママ』を発行し、直接相談に乗るため、月に数回イベントも開催しています。

こちらの画面に映っているのが東広島市子育て情報誌『ポナママ』です。記念すべき表紙はメンバーの子どもたちが飾りました。ちなみに私の子どもは、左側ですね。小さい子の方でこの時、1歳半でした。わが子を表紙にするのも、私の欲張りなところだと思います。さて、東広島市子育て情報誌『ポナママ』は、2014年10月2日に東広島市の補助金を採択されて創刊し、現在9冊目を作成中です。市が発行するものは子育て世代がもっとも必要とする情報、幼稚園の情報などの民間情報の掲載が難しいことから、行政が出来ない部分をカバーした東広島市に特化した情報を発信したい。また、全国誌のようなキラキラした生活を発信するのではなく、みんな一緒なんだよ、一人で頑張らなくてもいいんだよ、時には手を抜いても大丈夫、というママのリアルな声を届けることで、少しでも気持ちを楽に子育てをしてほしいという思いのもとで発行しています。ちなみに『ポナママ』という名前の由来は、ハワイ語で『ポナ』=『きずな』という意味があり、たくさんの人々が『ポナママ』を通じて、『きずな』を結んでいってほしいという思いもあります。発行に携わっているのは、乳幼児から小学生を持つ現役のママで、当初は3人で活動していましたが、現在は実際に『ポナママ』を読んで、一緒に活動をしたいと思ってくれた11名で活動しています。その中には、産後うつになって家から出られなくなった時に『ポナママ』に助けられて、「一緒に活動したい」と声をかけてきてくれたメンバーもいて、一緒に活動することで自信につながり、無事、職場復帰をはたすことができました。外に出ることに怖くなっているママを救いたいという思いもあったので、職場復帰をすることができたことは、とても勇気づけられましたし、私たちの励みになっています。

『ポナママ』ができるまでのきっかけは、いくつものたまたまが重なったものでした。第一子を出産してから少しの間だけでも娘と離れてお茶がしたいと思っていた時に、『託児あり、無料。みんなで話してみませんか』に引き寄せられ、たまたま参加したものが東広島市とNPO法人が開催した、『子育て討論会』でした。色々なテーブルをまわり、お話しさせてもらいましたが、その時に聞いた話も、子育てガイドブックや広報はあるけれど、ほしい情報が入って来ないという内容がほとんどで、東広島市の職員の方に「子育てガイドブックの改善や民間情報などをもっと発信できないですか」という要望を出しました。しかし、行政ではできることが限られていることを知り、自分たちで何か出来ることはがないだろうか、その時、たまたま同じテーブルに座っていたメンバーで考え始めたのが、『ポナママ』ができるきっかけのひとつです。活動を始めてから何もかもが順調に行っただけではなく、厳しいお言葉もたくさんいただきました。子連れで活動していく中で、「主婦のお遊びじゃない」と何時間も説教をされたこともありましたが、「子どもが小さいのに、今

やらなきゃいけないことなの」と言われたこともありました。自分自身にも、わが子を犠牲にしているんじゃないだろうか、と何度も問いただす時期もありました。けれど続けていくことで、たくさんの変化もありました。わが子からも店頭に並んでいる本を見て、「お母さんが作っている本があるよ、見て」とうれしそうな顔に救われました。そしてたくさんの変化の中でも1番の変化があったのが、行政、東広島市です。これまで私たちは、「こういうことをしてくれたらいいのに、なんで出来ないの」と言わんばかりに、要望ばかりを伝えてきました。きっとそんな要望を伝えられても市役所の職員さんも、「出来ることならとっくにやっている。自分もやれればと思うけども、難しいこともあるんだよ」と思っているんじゃないかと思えます。私が職員さんの立場なら、そう思うと思えます。しかし、なぜ難しいのか、そこで私たちには何が出来るのかをきちんと話し、それをカタチにしていく中で、「ポナママさんとなら一緒にやりましょう」と言われるようになり、時には、「こんなことがあるんですけど、一緒にやりませんか」「相談したいことがあるんですが」と東広島市から逆に相談されることも増えてきました。現在では市民が改善を求めても難しいと言われていた、東広島市が作成している子育てガイドブックも、私たちの声が反映され、改善され、お互いが苦手な部分をフォローしながら、行政と一般市民が一丸となって東広島市の子育て世代の力になっています。

こんな活動をしている私ですが、主婦だから時間があるから出来るんじゃない、と思われがちですが、実はこちらのスライドを見ていただくと分かるように、仕事もしながら活動しているというよくばりさんです。収入にならない活動をしていると、やはりモチベーションも途切れてしまうのが正直なところで、活動する上でモチベーションの維持のために、趣味を充実するため、きちんと収入を得ながら活動させてもらっています。その趣味のひとつは、のちのち発表しますが、私の収入は家族みんなで楽しむためにすべて消えていっており、家計の助けとなっているわけではありません。普段は週のほとんどを勤め先であるフォトスタジオ、カシュカシュクッキーで過ごしており、職場でも私の活動を支援してくださっているの、打ち合わせがあった時など急にお休みをいただいたり、表紙撮影をしていただいたり、『ポナママ』中心のシフトで働かせていただいています、嫌な顔をせず対応してくださり、職場には感謝の気持ちでいっぱいです。

仕事がサービス業なので土日関係ない職場で、家族全員が一緒の休みというのが現在はほとんどありません。今までは家族全員が休みが多かったので家でゆっくりしていたことが多かったんですが、貴重な休みとなるとどこか行きたいと思うようになり、休みの日はガッツリ出かけることが増えてきました。それが先ほどお伝えした私の趣味のひとつである小旅行です。子どもも小さいので、子どもが楽しめる場所と思って、考えて出かけることも多かったんですが、以外と何もない殺風景なところの方がのびのびとけんかもせず、それなりに何か見つけて楽しんでいることが多いと思うようになり、それなら自分たちがまだ知らない場所もたくさんあるのかも知れないと、広島県くじ引きの旅を始めました。

この写真はその時、左側が三原市で、右側が竹原市ですが、くじで当たった場所に訪れた時の写真です。まず、くじを引き当てたら、当たった地名の場所を徹底的に調べ、子どもが楽しめる場所、大人が行ってみたい場所の2つに分け、1日がかりでまわっています。

三原市に行った時は、謎の滝の看板を見つけて、遭難しかけるくらいの軽い登山になりましたが、こんな場所に、こんな所が、とびつくりしました。まだ県外のくじ引きは作っているだけで引いたことはありませんが、きつとくじを引かないと訪れることのない県もあると思うので、これから都道府県くじ引きの旅も、どこが当たるのか楽しみにしています。

これからの目標は、とりあえず頑張り過ぎず、今を継続して行くことです。「何故こんなことができるの。思ったことを実現できてすごい」と言われるんですけど、やること自体は本当に簡単で、やろうと思えば誰でもできるんです。ただ続けていくのは本当に難しく、だからこそ自分たちだけの力では継続が難しい部分もあるので、色々な方のご協力のもと、これからも東広島市の地域活性化のため、継続していけたらいいなと思います。最後にひとつ、こんな私がこんなことを望むのも恐縮なんですけど、これまで生活してきて、こんなことがあったらいいなという思い、要望を3つ発表させていただき、終わりにさせていただこうと思います。ひとつは、プレミアムフライデーというのができましたが、実際に行っているのはほとんどごく一部の企業なので、きちんと全企業が行える仕組みを作ってもらいたいと思います。2つ目は、1年に1回、日本には広島県を含めたくさんの素敵な場所があります。けれど人が多いとどこへ行くにも苦になってしまうので、全国民に平日に連休が取れるようになればいいなと思っています。最後、3つ目は、東広島市は遊ぶ場所が少なく、大学は県外へという若い人たちも多くなってきています。東広島市には大人が大好きなお酒の祭はあるんですけど、お酒が飲めない若者向けのお祭がないので、ぜひとも1年間、この日を待ちわびていた、と言えるような、人がたくさん集うお祭を作ってもらいたいなと思います。

これで私の発表を終わります、ご清聴ありがとうございました。

○司会

平井さん、どうもありがとうございました。どうぞこちらへ。広島県くじ引きの旅、いいですね。

●平井

色んなところに旅に行っていると、同じようなところにばかりに行くようになって、それならもう「くじを引いた場所に行こう」と思って作りました。

○司会

そのドキドキ感がお子さんたちもたまらないでしょうね。お話の中で色んな葛藤がありながら、ここまで続けてきたということで、最初からうまく行ったわけじゃないんですね。

●平井

企業さんから3時間説教された時は、「何やっているんだろう」「もうやめたい」とへこみました。お遊びとは思っていなかったんですけど、周りからはそう見えるんだと感じました。

○司会

出発点は出産後に悩んでいるお母さんたちの声を聞いてということですよ。私もそう

なのですが、子どもを授かって、これから幸せなことがいっぱいあると勝手に思い描いていたら、現実はそうじゃなかった。そこでちょっとつまずいてしまうママたちも沢山いらっしゃる。そういったママたちがどんどん変化していくっていうのは、ポナママさんと平井さんの力だと思うんですが、そのあたりは感じられますか。

●平井

そうですね、リアルな声を届けているという面では、「すごく救われた」という意見は多く受けています。今はネット社会なので情報はすごく得られるんですけど、ネットの情報で逆に自分を追い詰められる。「みんなできているのに、なんで私はできないんだろう」と感じることも多いので、「そんなにがんばらなくてもいいんだよ」という思いでポナママを作成しています。

○司会

ある方の言葉「子育ては尊い日常」が私はとても印象的なんですが、その今ある日常をいかに楽しむかというのも、やはり自分次第ということなんですね。それでは平井さんにも、うまい時間の使い方をぜひお伺いしたいんですが。

●平井

子どもの習い事は、送り迎えが苦になっているお母さんが結構多いと思います。私は自分自身も楽しもうと思って、子どものピアノレッスンで自分もピアノを習い始めました。そうすると娘が練習をしてなくても、「月謝の無駄使いじゃん」「もうやめてしまえばいいのに」とイライラすることもなく、「自分も習っているからいいか」と思え、習い事を親子で楽しめるようにしました。

○司会

ただの付き添いではなく、自分もそこに乗っかっちゃったんですね。

●平井

そうです、乗っかってピアノを弾いています。

○司会

むしろ娘さんよりもノリノリで。

●平井

そうですね。

○司会

そうやって時間を重ねていくということも、うまく時間を使うポイントなんですね。それでは『欲張りライフ』を実践するための平井さんならではのポイントを教えてくださいませんか。

●平井

そうですね、やっぱり一人ですべてががんばるのは不可能なので、木下さんも言われていたんですが、家族の協力は絶対必要ですね。私はホワイトボードに登園の時間など家事をすべて書いて、みんなが見えるように冷蔵庫に貼っています。ピンクは私の磁石、夫は青色、子どもたちは黄色と決めて、やることと、今どんな家事が残っているのかをみんなが見ながら、「今日はこれがまだできていないんだ」「じゃあこれは自分がやる」と、それぞ

れが磁石を付けていくようにしています。

○司会

家族みんなが、家事のことをひと目で分かるようにしているんですね。

●平井

そうすると、「今日は何をやったらいい？」という問いかけもなくなるので、その時間もはぶけるし、率先してみんなが動いてくれるようになりました。

○司会

なるほど、ママが一人で、「まだあれもこれもやらなければいけない」じゃないんですね。先ほどの木下さんもそうですけれども、うまく家族を巻き込んでいるということですね。しかもストレスなく。

●平井

そうです、お互いにストレスなくやっています。

○司会

今日はいいヒントを沢山いただきました。このポナママのポナというのは、ハワイ語で絆とおっしゃいましたが、これからもきっと沢山のひとと絆を大切にしながら、がんばっていかれることと思います。今日は素敵なお話をありがとうございました。

●平井

ありがとうございました。

○司会

平井美香さんにどうぞ大きな拍手をお送りください。ありがとうございました。お二人ともそれぞれにスーパー欲張り、欲張りマスターと呼びたいような方でしたね。その情熱と、そしてご自身の行動力で人生を二倍も三倍も楽しんでいらっしゃる、そんな雰囲気をしっかりみなさまにも伝えていただけたかと思います。

以上、あなたの周りのよくばりさんの「欲張り自慢」でした。ありがとうございました。

4.谷原さんと知事によるトークショー

●司会

これよりトークショーの準備に移ります。本日は、懇談会終了後、16時30分までロビーにて県西部の様々な特産品の販売をしています。また、現在開催中の『ひろしま さとやま未来博2017』と『瀬戸内三原 築城450年事業』のイベントPRを行っています。お帰りの際は、是非お立ち寄りください。

『瀬戸内三原 築城450年事業』PRブースでは、本日のゲストの谷原章介さんが三原のまちを紹介する『ミハラブック』もお配りしていますので、ファンの方のみならずお手に取ってください。

トークショーの前に、会場の皆様をお願いします。まもなく、谷原さんと湯崎知事が登場されますが、ここからは、写真撮影、動画撮影、音声録音の一切をお断りいたします。このトークショーの様子は、広島県ホームページに動画を掲載予定です。また、6月20日（火）の広島FM「DAYS!？」でも放送しますので、そちらを楽しみにしていただ

いて、個人での撮影はご遠慮ください。皆様の御協力をお願いいたします。

それではお待ちいたしました、準備が整いましたので、お二人をお呼びしましょう。

●湯崎知事

やっぱりかっこいいですね。なんかもう、出てきた瞬間の雰囲気がまったく違うなっという感じです。

○谷原

みなさま、今日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

●湯崎知事

今日、谷原さんに来ていただいたのは、単にかっこいいからではなくて、仕事も暮らしも充実したイメージがあるということで、その素顔に迫って行きたいと思います。谷原さんは広島との深いご縁もあり、今日はおいでいただいたわけですが、先ほどもちょっと三原の話が出ていましたが、谷原さんから広島とのご縁について少しお話いただけますか。

○谷原

ぼくの祖父、そして父親が広島の本郷町という所の出身です。もうみんな東京の方に引っ越しましたので、ぼく自身は広島に田舎があるわけではないのですが、小さい頃からカープファンで、ずっとカープを応援することで、うちの家って元々は広島なんだなというのを感じていました。

●湯崎知事

ご一家はみなさん、ずっとカープファンなんですか。

○谷原

そうですね。父、僕ら兄弟、みんなカープファンです。

●湯崎知事

カープが意識させる、ふるさと広島、そういう感じですか。

○谷原

夏休みになるとみんな田舎に帰って行くじゃないですか。ぼくは実際には、本郷町におじいちゃん、おばあちゃんの家があるわけではなかったんですが、ぼくは広島とつながっているんだな、みたいな思いはどこかにありましたね。

●湯崎知事

今、三原のふるさと大使をお務めいただいておりますが、せっかくなんで三原のPRも少ししていただけますか。

○谷原

ぼくなんかよりみなさんの方がよくご存知だと思うんですけど、やっぱりタコが有名ですね。そして後は何と言いましてもお水がいいので日本酒が美味しいですね。

●湯崎知事

お酒ですね。

○谷原

後、何よりも人がとっても優しく、温かいですね。市長をはじめ、市役所のみなさん

にもとてもよくしていただいております。

●湯崎知事

今日は三原からもブースを出していただいて、谷原さんの写真もドーンと出ていましたよ。

○谷原

そうですか。じゃあぼくも後で見に行ってみようと思います。

●湯崎知事

カープファンというお話がありましたけれど、みなさん、昨日の谷原さんの始球式をご覧になりましたか。

○谷原

昨日、始球式をやらせていただきました。ありがとうございました。

●湯崎知事

素晴らしいストライクでしたよね。

○谷原

たまたまですけど、入ってよかったです。

●湯崎知事

あそこに立つとすごくドキドキしませんか。

○谷原

3万人以上の方が見ていますし、普段と違ってかっこ悪いところは見せられないと変なプレッシャーもあるじゃないですか。本当だと1時間ぐらい前にちゃんとキャッチャーの方に座っていただいて練習するんですけど、昨日は一切練習がなかったんですよ。

●湯崎知事

えっ、そうなんですか。谷原さんが投げる時は練習させてもらえるんですか。

○谷原

練習の時間がありましたよ。

●湯崎知事

ぼくは1回もやってもらったことないですよ。

○谷原

そうなんですか。

●湯崎知事

この差は何だろうという感じですね。

○谷原

ぼくの場合はまわりの方が恥をかかせないように気をつけてくださるんですかね。

●湯崎知事

ぼくもちょうど水曜日に、毎年やる広島県と広島市の合同応援会というのがあって、始球式をやりましたが、低めど真ん中、ワンバンだったんですよ。

○谷原

ちょっと力が入っちゃったんですかね。

●湯崎知事

でも昨日は谷原さんのストライクのおかげでカープが勝ちましたね。

○谷原

本当によかったです。8回までどうなることかと思いましたけどね。昨日、球場へ行っていた方はいらっしゃいますか。ドキドキしましたよね。

●湯崎知事

ぼくの時も勝ったんですけど、12回までやりました。ワンバンすると、ちょっと時間がかかっちゃうんですかね。

○谷原

でもキャッチャーが取れたからやっぱり勝てたんですかね。

●湯崎知事

市議会議長にキャッチャーをやっていただいて、申し訳なかったです。でも勝ったからお互いよかったですよね。

○谷原

最高ですよ。

●湯崎知事

負けたら怒られますからね。

○谷原

本当ですよ。お前が投げたせいだって言われるとつらいですからね。

●湯崎知事

ずっとカープファンの谷原さんにとって、去年は久しぶりに素晴らしい優勝でしたね。

○谷原

いい思い出をしましたね、みんなで。

●湯崎知事

ちなみに優勝のシーンはどちらで。

○谷原

ぼくは東京ドームで見させていただきました。

●湯崎知事

最高ですね。

○谷原

知事はどちらで。

●湯崎知事

実は私も東京ドームに行っていたんですよ。

○谷原

そうなんですか。その時は全然お話もしなかったですが失礼いたしました。

●湯崎知事

あの時はかなり色々なカープファンの有名人がいらっしまったみたいですね。

○谷原

徳井さんもいました。

●湯崎知事

カープ芸人とかカープなんとかって言われる方はみなさんこぞって東京ドームにおられたんじゃないかなと思いますね。

○谷原

数多くの方がいらっしゃいましたね。

●湯崎知事

谷原さんは、たくさんテレビにも出ていらっしゃいましたよね。

○谷原

カープのおかげでアメトークという番組に出させていただきました。後は NHK のニュースでも取材していただきました。新聞も含めたら、数多くのメディアにカープファンとして出させていただきました、本当にありがとうございます。

●湯崎知事

今年も引き続きカープは強いじゃないですか。去年シーズンが終わった時にぼくは立場上「来年も行くぞ」。今年はじめた時に「今年も行くぞ」と言っていたのですが、実はちょっと半信半疑だったんですよ。

○谷原

どうしてですか。

●湯崎知事

2年も続けて、なかなかそうはいかないんじゃないかと。

○谷原

まあ昨年はいいいことがいっぱい重なり過ぎましたしね。

●湯崎知事

そうなんですよ。

○谷原

黒田選手が抜けたりしましたしね。

●湯崎知事

どうですか今年ご覧になっていてカープの調子は。

○谷原

序盤の頃に去年の両輪だったジョンソン、野村の両投手が相次いでリタイヤしたじゃないですか。プラス黒田投手がいない時点で去年の50勝弱ぐらい、黒田さんが10勝、野村が16勝、ジョンソンも15、6勝ですよ。だから40勝ちょっとが消えたわけですよ。これはどうなるのかなと思ったら、若手のピッチャーの台頭が著しくて、素晴らしいですね。藪田、岡田、そして九里亜蓮が中継ぎ、先発と縦横無尽に活躍してくれて、去年のメンバーを補って余りあるぐらいの活躍をしていると思いますね。

●湯崎知事

まるで解説者のようですね。

○谷原

昨日、ご一緒だった横山さんの受け売りなんですけどね。

●湯崎知事

昨日は始球式の後もテレビで解説もされていましたね。でも、なかなかお忙しいのにカープを見る時間はあるんですか。

○谷原

最近では IT が進んでいるので本当に助かります。東京ってカープの情報がどれくらいあると思います。新聞もこれくらいで、ほとんどないんですよ。

●湯崎知事

そう、あれはひどいなと思います。地元の新聞を読んでいるとまるで世の中はカープだけのように思うんですけど、全国紙のカープ情報を見るとこれだけしかない。

○谷原

本当にこれくらいなんですよ。

●湯崎知事

ぼくはちょっと声を大にして言いたい。全国紙のみなさん、おかしいですよ。

○谷原

勝っているのにこの扱いはおかしいと思いますね。

●湯崎知事

そうですね。

○谷原

昔だったらテレビ中継は巨人戦はあったけれども、広島球場の映像っていうのは NHK が時々中継してくれるぐらいで、基本的に東京は広島の情報過疎地だったんですよ。ラジオもあんまりやってくれない。ここ 3 年、4 年ぐらい前からアプリでラジコというのがありまして、あれで RCC のラジオは聞けるようになりました。その後はカープの試合をインターネットで見たりしていたんですが、今はダゾーンだったり、スポナビとかそういうので、どこにいてもカープの試合を簡単に見ることができるようになりました。

●湯崎知事

実際に動画でご覧になっているんですか。

○谷原

動画で、ライブで見えています。

●湯崎知事

イヤホンなんかしたりして。

○谷原

ラジオの時はそうしていました。

●湯崎知事

昔はおじさんがよくやっていましたね。去年、マツダスタジアムで阪神が負けたらカープが優勝という時があったじゃないですか。結局、決まらずに東京ドームへ行きましたけど。あの時は球場でみんなで阪神の結果を見ていて、阪神が勝った瞬間に球場中があーっとなりましたね。

○谷原

ぼくもその時に球場にいました。父と一緒に行っていました。

●湯崎知事

そうですか。すごいシーンだな、テクノロジーの発展を感じましたね。

○谷原

ちょっとつながりにくかったですもんね。

●湯崎知事

そうそう。みんなが見ていますからね。

○谷原

球場全体で電光掲示板よりも先に情報を知ってしまうっていう変な感じがありましたよね。

●湯崎知事

今年も頑張っしてほしいな。今日も今頃、試合が始まっています。みなさんは今日はカープより谷原さんですからね。

○谷原

でも本当は球場へ行かなければいけないですよ。交流戦の初優勝をかけた試合ですからね。1回の表裏で1対1でした。

●湯崎知事

こういう広島ラブ、カープラブの谷原さん、本当にうれしいですよ。ではそろそろ今日の本題に入っていこうと思います。谷原さんは、司会もやられるし、ナレーションもやられるし、もちろん俳優さんとして映画やドラマにも出られている。次々と活躍の場を広げてきたチャレンジ精神の源には何があるのでしょうか。

○谷原

ぼくは大学を出ているわけでもないですし、仕事をして生きなければならない。生活をしなければいけない。それがすべての根っこですね。ですからどんなものでも仕事 came たら気持ちよくよろこんでやらせていただきますし、スケジュールが空いている限りは受けています。

●湯崎知事

プロとして食欲に、とにかく受け入れてやっていこうということですか。

○谷原

若い頃はお芝居だけ。中でも映画だけみたいな変なこだわりがあったんですが、そんなことよりは、まずは自分自身を色んな方に見ていただき、知っていただき、そして楽しんでいただくことが一番かなと思っています。

●湯崎知事

そして今は新しいドラマ『犯罪症候群シーズン2』をwowwowでやられていますね。これはみなさんぜひご覧になっていただきたいと思うんですけど、いつもの谷原さんとちょっと違う谷原さんなんですよ。

○谷原

ぼく、いっぱい人を殺しているんですよ。もうかれこれ7名ほど。

●湯崎知事

もう7名も殺しているんですけど。

○谷原

すみません、ちょっとそうになっています。明日はすべての撮影が終わるクランクアップの日です。

●湯崎知事

俳優さんは役によって色々な演技をされますよね。日常のことなら想像もできるし、誰かがやっているのを見るとか、ヒントになることもあると思うんですが、殺人はやったこともないし、たぶん見たこともないじゃないですか。それはどんな風に勉強するんですか。

○谷原

今まで見た映画だったり、ドラマだったり、もしくは役作りはぼくだけではなくて演出家の方もいらっしゃると思いますので、みんなで相談をしながらですね。どういう風にそれを見せるのか、例えば、殺す人のキャラクターが、ぼくは警察官の役ですけど、警察官が殺す。もしくは武術家が殺す。またはすごく非力な人間が殺す。そのキャラクターによって殺し方はもちろん変わってくると思いますし、メディアによっても変わりますね。

●湯崎知事

メディアで変わることもあるんですか。

○谷原

テレビと映画、舞台、そして最近やっているBS放送はメディアの特性が全然違うじゃないですか。

●湯崎知事

えっ、そうなんですか。

○谷原

舞台とか映画はお金を払って見に来てくださっていますので、観客の方が選択しているわけですね。もちろん作品によってR15とか年齢制限を設ける場合もあります。しかし基本的には見る方が能動的に来てくださる。でもテレビの場合は不特定多数の方が見る可能性がありますので、子どもから大人まで、もちろん時間帯によって分けられるんですが、誰が見るか分からないという時点で、表現の幅はとて抑えられたものになりがちですね。血の表現はあまりできないとか。一時期、アニメでフラッシュがちょっと強くて、子どもが失神する事件がありました。そうするとぼくらのドラマの撮影でも、パトカーのランプが1秒間に何回以上は明滅しないようにするとかを強制するんですね。

●湯崎知事

そんなことまで気をつかわれるんですね。

○谷原

それ以外にも、社会的な問題になったバタフライナイフは出さないようにするとか。それだけ影響力があるんですよ。

●湯崎知事

プロの世界はやはり違うんだなということがお話を聞いて分かりますね。その世界で影響があることをどこまでやるのかを考える。なかなか大変ですね。谷原さんはこれから俳優さんとしてチャレンジしていきたいことは何かありますか。

○谷原

やっぱり役者ですから、「お前にこういう役をやらせたい」と思っていたりすることからすべてが始まりますよね。映画も舞台もドラマもいっぱいやってきていますが、いただいた本というのは初めて出会う役なんですね。ですからその役の大小や作品の大小ではなく、その役に毎回きちんと向き合っただけやることをぼくは大事にしたいなと思っています。

●湯崎知事

色んな方のアドバイスを受けて、色んな人の人生を生きることなんですね。

○谷原

そうですね、疑似体験といいますか、生きようと思っています。特に難しいのは大河ドラマとかで実在の方を演じる時です。幕末の場合ですと、まだご遺族の方や縁者の方が生きていることもありますので、そういう方々が見た場合に気分を害さないように、もしくはよろこんでいただけるようにと思っています。

●湯崎知事

そこにもすごい配慮があるんですね。

○谷原

白洲次郎さんみたいな最近の方をやらせていただいたこともあるんですけど、そういった伝説的な方を演じるとなると、とても緊張する反面、ちょっとうれしかったりもするんですよ。あの吉田茂の懐刀と言われた白洲次郎をやる。そういうのって役者として感無量ですね。

●湯崎知事

谷原さんはプライベートも大変お忙しいと思うんですが、仕事と暮らしを両立させていく上での工夫やチャレンジしていることはありますか。

○谷原

ぼくは結婚して今年ちょうど10年目なんですが、結婚前と結婚した後、そして子どもが出来て以降は、自分自身の時間の使い方が変わりました。結婚前は、自分の時間はほぼ100%仕事に使っていました。結婚した後は、それが仮に半分になったとします。子どもが生まれたらさらに時間が減って、今では家の中で仕事に対して向き合っている時間はほとんどないんです。

●湯崎知事

家に帰るとスイッチが切り替わるということですね。

○谷原

ほぼ家族のための時間になります。

●湯崎知事

その分はどこかで工夫をされているんですか。

○谷原

いままで家でやっていたセリフを覚えるなどの作業を撮影現場に行く途中の車の中とか、撮影前のメイクの30分とか1時間を使ってやるようになりました。例えば、同じものを作るのに1時間ぐらいかけていたのをがんばってやれば5分ぐらいで出来るようになりました。

●湯崎知事

それはつまりサラリーマンで言えば、生産性を上げるということですね。

○谷原

そうですね、生産性を上げているのかも知れませんが。でも今まで100%でクオリティを維持してきたものをずっと求め続けるのは自分自身も辛いですし、それだけが役者としていいことじゃないとも思います。最低限のクオリティを仮に90%だとしたら、ぼくは最低でも90%までは作り上げようと思う。その90%から100%までの残りの10%を積み上げようとした時には、今みたいな時間の使い方だとできないですよ。それをどうしたかという、ひとつの台本の中で全部のシーンで100%のものをつくりあげようと思うと息が詰まるので、どこか抜くところを作る。ですからぼくは、このシーンとこのシーンだけは100%で、後は大体、7、80%ぐらいでやる。それが見ている方にとっても肩がこらない。ちょっとゆるい感じで作り上げる。ポイント、ポイントをいかに自分の中で明確に力を注ぎ込むかということですね。

●湯崎知事

ぼくから見ると、谷原さんが力を抜いているようには見えませんが。きっと100%のところは120%になっているんじゃないですか。

○谷原

確かに自分自身の経験などもあり、引き出しが増えたり、許容量が増えたりしていると思います。さっきは会う作品はすべて初めての役と申し上げましたが、刑事の役は今までもやったことがあるので、刑事の言葉とか所作とか、そういうことは改めてやろうとしなくても準備はできているんです。だから時間が短くすむということがあるかもしれません。

●湯崎知事

結婚して、お子さんが生まれて、そういう経験が役者の仕事に反映されることはありませんか。

○谷原

それはすごくあると思います。今ぼくには中学2年から2歳まで6人の子供がいます。その子供たちと日々一緒に過ごしていることで、結婚前に子どもがいる親の役をやった時とは今はまったく違います。ですからぼくがさっき、子どもがいることで仕事に向けられる時間が減っていると申しましたが、実は子どもと過ごす時間が役者としての自分に色んな力や栄養をくれています。人生って、仕事と家庭の対極的な話だけではなくて、今、人生のどの瞬間なのか、平均寿命が80年あるとしたら、ぼくは今44歳なんですけど、44歳の自分は仕事と家庭という、どちらかといえば家庭に比重を置きながら、家族のために仕事をする、時間をやりくりする。でも子どもたちがもっと大きく育っていった時に

は、今度は家族のために使う時間よりは、明らかに仕事に向き合える時間が増えるじゃないですか。今は子育てを経験していることが、ぼくに色んなものをくれるんじゃないのかと思っているんです。

●湯崎知事

引き出しが増えるだけじゃなくて、引き出しの中身もどんどん増えているんですね。さつきよくばりさんのお話の中で、ワークライフバランスじゃなくて、ワークライフシナジーというお話があって、ぼくは素晴らしい表現だなと思いました。

○谷原

まさにそうですね。

●湯崎知事

これは一般の仕事でも、そういうことがあるとぼくは思います。例えば、女性の方が、主婦を経験し、子育てを経験すると、すごく段取りがうまくなるんですね。家事や子育てはマルチタスクじゃないですか。朝の忙しい時は色んなことを同時にこなさなければいけない。それは職場で同時に色んなことができることにつながる。素晴らしいことだと思います。男性は元々、マルチタスクは弱いんですね。これはどうも狩りをする時、獲物を狙ったらそれだけに集中してしまう。だけど女性は、あれもこれもと欲張りができるようにできている。だから男性も家事や育児を経験すると、ちょっとその能力が改善されるらしいんです。そういう観点からの経験は仕事の上でも役立つことが多いようです。

○谷原

おっしゃる通りですね。ぼくが子育てで思うのは、1歳1ヵ月のその子は、その瞬間しかないですね。その瞬間、その瞬間が積み重なって大人になるまでの間に、ぼくらに共有の思い出が出来上がっていく。ぼくはまだ中学2年の子どもが一番上の子ですから、親としても、父親としても、中2レベルなわけですよ。これがもうちょっと経つとたぶん高1レベルになって、大学レベルになる。自分も父親として成長していく。長男の場合は、しょせん中2レベルの親とつきあっていますから、お互いに初めてのことが多くて大変だと思いますが、一番下の2歳の子は、たぶんその子が幼稚園や小学校に入る頃には、ぼくはもう大学レベルの父親になっている。下の子には余裕を持ってつきあえるというのはそういうことなのかなと思います。

●湯崎知事

ぼくは今、中3、小5、小1の子どもがいるんですが、小1の子が一番余裕をもってつきあっています。子どもはずっと同じことをやるじゃないですか。上の子の時は、それがだんだんがまんできなくなったのに、一番下の子は割りと平気にずっと同じことをやってもつきあえる。それは自分が成長したということだったんですね。中3レベルまで上がってきたということなんですかね。谷原さんはご家族と過ごされる時は、どんなことをしているんですか。

○谷原

よく映画を見に行きますね。近所に公園がありますので公園に行くことも多いです。この間は下の子どもたちだけを連れて、釣り堀に行きました。楽しかったです。

●湯崎知事

東京で釣り堀ですか。

○谷原

東京の釣り堀です。

●湯崎知事

映画はご自分が出ている作品と一緒にご覧になったりするんですか。

○谷原

いや、それはあんまりないのですが、ぼくがプリキュアという女の子向けのアニメ映画で声優をやった時には見に来てくれました。

●湯崎知事

そうですか。なんかちょっと照れませんか。

○谷原

照れますね。舞台挨拶を見に来てくれたんですが、「お父さーん」とか言われて照れましたね。

●湯崎知事

そんな声をかけてくれるなんて素晴らしいじゃないですか。ぼくがステージに出ている、うちの子どもたちは絶対に言ってくれないですね。

○谷原

それはちゃんと気をつかってくれているんじゃないですか。

●湯崎知事

できるだけ目立たないように小さくなって、隠れるようにしていますよ。来るのがイヤだって言いますもんね。

○谷原

まあお父さんのお仕事に対して、そういう時期もあるんじゃないですか。

●湯崎知事

時期だといいいんですけどね。谷原家のように素直に育っているのかどうか。

○谷原

それはすべて妻のおかげだと思っています。ぼくがいない間にちゃんと妻がぼくの仕事のことを理解して、子どもたちに言い聞かせてくれている。いない間にぼくの悪口なんか言っていると、たぶん子どもも、「ああそういう人なんだな」と、ぼくに対する接し方が変わると思うんですよ。でも子どもたちがすごくぼくのことを好きでいてくれるのは、妻が家にいる時にぼくのことをそうやって扱ってくれているからなんだろうと思います。

●湯崎知事

ぼくはテレビを見ていて谷原さんってナイスガイだなんて思っていたんですけど、本当にナイスガイですよ。

○谷原

そんなことないですよ。このことは外では言いますが、妻には直接絶対に言いませんから。

●湯崎知事

外で言えることが素晴らしいですよ。なんかラブ光線が出ていましたね。

○谷原

そんなことはないですけどね。家では妻に対してそっけないんですよ。

●湯崎知事

ちなみに、お子様もカープファンなんですか。

○谷原

カープファンですよ、当然じゃないですか。[拍手]帽子もかぶらせていますよ。

●湯崎知事

さすがですね。受け継いでいただけてうれしいですね。

○谷原

ぼくがお酒を飲んだりしながらカープの試合を見ていると、子どもたちも一緒にかたまっているの、ちょっと向こうに行ってくれないかなと思ったりしますね。ここらへんで見るわけですよ。

●湯崎知事

団子になって見るんですね。いいですね。ちなみに谷原さんご自身の趣味が受け継がれていくような、例えば、スポーツだとか、さっきの釣り堀というのは釣りがご趣味なのかも知れませんが、そういうのはありますか、一緒にやるみたいなの。

○谷原

一番上の中学生が、今、水泳を一生懸命やっています。ぼくも小さい頃、水泳をやっていたので、まあ受け継がれているかなと思います。趣味がまだ確定しているほど大人になっていないので、一緒にやったというのはゲームですかね。ぼくは元々あんまりやらなかったんですが、子どもは好きだったので、共通の会話のためにやりました。一緒にひとつのゲームをクリアするための情報を共有したり、裏技について話したりすることが出来ますよね。今はゼルダの伝説というのを長男とぼくと一緒にやっています、「あれはどうなんだ」「そんなのできるの」みたいなことで会話の種になっています。

●湯崎知事

それはいいですね。ゲームの効用ですね。

○谷原

妻はゲームはイヤだ、長くやっちゃダメだと言うんですけど、まあ小さい頃からやっていたので、ダメだと止める人がいるんなら、ぼくは一緒にゲームをやって、楽しさを、子どもの話し相手になろうかなと思っています。

●湯崎知事

そういう観点からゲームをやるんですね。うちもゲームはあんまりやらせないほうなんですけど、そのお話を聞いて、ちょっと練習してみようかなと思いました。谷原さんはお子さんが6人ですから、少子化解消にもものすごく貢献していただいていますね。ご結婚10年で6人というのは、奥様は結構大変だったですね。

○谷原

大変だったと思いますよ。ちょっと前までは幼稚園に年少，年中，年長と3人いましたから，すごいですよね。

●湯崎知事

それはもう毎日が戦争状態ですね。谷原さんもそこへ参戦していたんですか。

○谷原

子どものお弁当は妻が作ってくれるので，ぼくは昼ごはんと夜ご飯を担当しています。

●湯崎知事

谷原さんは，お料理が大変お上手だとお伺いしています。

○谷原

上手かどうかは分かりませんが，作りますね。

●湯崎知事

料理番組にずっと出ていらっしゃるんですね。

○谷原

『きょうの料理』という番組を5年間レギュラーでやらしていただいています。最初は『男の食彩』といいまして，スタジオに色んな料理人の方にお越しいただいたんですけど，次の年度からは，今度はぼくが出て行って，ここ2年ぐらいは，『タイムレスキッチン』という，そうそうたる伝説の料理研究家の方の所にお邪魔して，その方の料理哲学をお聞きしたり，その方が大事にしているレシピを教えていただいたりしています。

●湯崎知事

それをご自分で作られるんですか。

○谷原

家で作っています。

●湯崎知事

それはかなりの腕ですね。どんなレベルのものを作られるんですか。ぼくなんかは簡単なものしか作れませんけど。

○谷原

知事はどんなものを作られるんですか。

●湯崎知事

オムライスとかですね。ぼくはオムライス検定に通ったんですよ。

○谷原

オムライス検定ってあるんですか。

●湯崎知事

オムライス検定というのは，某社さんがやられていて，カゴメさんなんですけど。なぜ言っていないかというと，広島県とカゴメさんは包括連携協定を結んでいまして，男性の料理教室をやっていたりしています。その他にもトマトを保育園や障害者の施設に寄付していただくなど，色々やっています。その料理教室の中でオムライス検定がありました。ぼくはトマトの入らないミネストローネとか変なものを作ったりしますね。

○谷原

トマトが入らないミネストローネってコンソメベースということですか。

●湯崎知事

そうですね。要するにトマトがないから入れずに作っただけです。本当はトマトソースの缶詰を入れるんですが、なかったのものでそのまま仕上げました。

○谷原

ご家族の評判はどうでしたか。

●湯崎知事

それが、子どもに妙に受けまして、時々あれを作れとリクエストが来るんですよ。本当は包括連携協定を結んでいるからカゴメのトマトを入れたほうがいいと思いつつながら。

○谷原

それが家庭の味になっていくんだと思いますよ。

●湯崎知事

そうですね。まあ、ぼくはそんなには作らないですけど、谷原さんはどれくらいの頻度でお作りになるんですか。

○谷原

今はドラマがあり、ほとんど家にいないので作れないんですけど、家にいる時は、ぼくが絶対に作りますね。

●湯崎知事

元の質問は、どれぐらいのレベルの料理なのかでした。オムライスレベルなのか、フルコースのフレンチなのか。

○谷原

いや、しょせんは家庭料理です。例えば、おひな様の節句の時なんかは、アジとかサバを買ってきて、さばいて、酢じめにして、手まり寿司を作ったりします。

●湯崎知事

それはかなりハイレベルですね。

○谷原

いやいや、手まり寿司はそんなに難しくありませんよ。ただ魚をさばくのはすごく好きなんです。

●湯崎知事

魚をさばけたらすごいですよ。広島で暮らすには最高です。

○谷原

瀬戸内は美味しい魚がいっぱいありますものね。昨日、イワシをいただきました。小イワシの刺身を。

●湯崎知事

この季節は段々美味しくなりますよね。小イワシは七度洗えばタイの味と言いますからね。

○谷原

他にも天ぷらをいただきました。昨日は安仁屋宗八さんと食事をさせていただいたんですよ。「これは食わなきゃダメだ」「君、これを食いなさい」って言われて、「はい、いただきます」と。

●湯崎知事

安仁屋さんと食事ですか、いいですね。ぼくも今日は小イワシを食べたんですけど、家内がいなかったんで、自分で冷凍の小イワシを解凍して食べました。谷原さんとは全然違いますね。

○谷原

おいしいですね、小イワシ。

●湯崎知事

そうですね、この季節が旬ですね。

○谷原

そういうのをぼくはどんどんと県外の方に知っていただきたいと思いますね。ぼくは小イワシのことを知りませんでした。「これが6月ぐらいから旬でいいんだよ」「風物詩なんだよ」ということを知ると、食べたくくなりますよね。

●湯崎知事

実は最近、銀座1丁目にある『TAU』という広島ブランドショップで鮮魚を充実させていて、広島の新鮮な魚が東京で手に入るんですよ。『TAU/たう』という店名は、届く、という広島の方言です。

○谷原

『TAU』で鮮魚が手に入るんですか。ぼくは三原のタコを買いに『TAU』に行ったことはありますが、その時は鮮魚には注目してなかったです。今度、ちょっと見てみます。

●湯崎知事

4月に鮮魚コーナーを改装しました。ゴールデンウィークの直前に新しくなったんです。その日の朝に取れたやつか、前日の夕方に取れたやつが『TAU』に並びます。築地経由よりも圧倒的に短い時間で店に並ぶので、新鮮で美味しい魚が手に入ります。

○谷原

それはいいですね。

●湯崎知事

地下に和食屋さんがありますが、そこで食べるのと同じ魚です。ですから本当にいいお魚なので、ぜひ今度、買って、さばいて食べてください。

○谷原

『TAU』に寄らせていただきます。

●湯崎知事

谷原さん、料理ができるとモテるでしょう。

○谷原

いや、モテないですよ。

●湯崎知事

まあ奥さんとラブラブですからね。

○谷原

そんなに女性と接する機会がないですから。

●湯崎知事

そうなんですか。

○谷原

ぼくはあんまり女優さんと飲みに行ったりしないですし、役者ともあんまり飲みに行かないんです。地元は横浜の野毛という所で、同級生の友だちがお店をやっている、すぐそこへ行っちゃうんです。女の人と会うっていうとそば屋のババアくらいですかね。いいババアがいるんですよ。友だちの所へ行った後でそのそば屋に行って、その女性、ババアにちょっとヤイヤイ言われながらそばを食う。

●湯崎知事

よっぽど仲がいいんですね、ババアと呼んでもOKなんですから。

○谷原

大好きな女性です。キダタローさんみたいな顔をしています。

●湯崎知事

谷原さんは仕事も暮らしも充実している感じですね。

○谷原

そうですね、今は仕事も家庭も忙しくて、時には自分の時間がほしいなとイラッとする事もありますけれど、振り返ってみると今が一番幸せだったんだろうなと思うことがよくあります。

●湯崎知事

先ほど、結婚してご家族が増えてから、移動の車とかメイクの時に台本を読むと言われましたが、そういう工夫は他にもやっていることがありますか。逆に生活で工夫していることがありますか。

○谷原

料理の段取りは工夫していますね。まず時間がかかる仕込みから、どんどんやります。効率のいい時間の使い方でも作業の濃度、密度みたいなものを変えられると思います。でもぼく自身が大事にしているのは、家庭があってこそその仕事だということです。家族のために働いてお金を稼いで、みんなが幸せに暮らしている。でも家族がいなかったら、ぼくは家にいる意味があるんだろうか、働きに行く意味があるんだろうかと思うんです。でも他方では、自分自身の生きがいとして仕事と向き合う、これもやりがい、生きがいとしてはかけがいのないものだとも思うんですよ。ですから仕事をする時に大事にしているのは、効率よくやるということはもちろんですが、自分なりにプロとして、この一線は絶対に崩せない、このクオリティだけは崩せないというものを持つようにしています。

●湯崎知事

まさに欲張りさんですね。

○谷原

どっちもほしいですね。

●湯崎知事

仕事はもちろん妥協しない。ただその中で工夫して、少し緩めるところは緩めて、どこぞという時はバシッとやる。暮らしも、お料理やお子様との時間を楽しみ、大切にしている。学校行事なんかにも行かれますか。

○谷原

はい、この間は運動会がありまして、行って来ました。

●湯崎知事

谷原さんが来たらびっくりですよ。

○谷原

近所の子たちなんでそんなことはありません。

●湯崎知事

ぼくは俳優さんのことはよく分かりませんが、谷原さんぐらい売れっ子になると、そういう忙しさだと思うんですけど、運動会に行ったり、お家では必ずお料理を作る。しかもさらっと言われましたが、必ず作るんですよ。

○谷原

そうですね、基本、必ず作りますね。その間は子どもの面倒を妻がしてくれています。

●湯崎知事

それは奥さんもよろこぶでしょう。奥さんが片手間じゃなくて、しっかりお子さんと向き合う時間が取れるわけですからね。本当に欲張りだという感じがします。今日は本当に来ていただいてよかったと思います。ちなみに三原のふるさと大使でもありますし、三原にご縁があるので、広島もよく来られると思うのですが、広島が東京と比べて、こんなところが欲張りになるチャンスがあるんじゃないか、こんなところがいいんじゃないか、そんなところが何かありますか。

○谷原

生きていく、生活をしていく上で大事なものは家族、仕事、そして趣味として自分の好きなことをやることじゃないですか。仕事があるという意味では東京も広島も両方仕事がある。広島は中国地方の大都市ですからね。家庭という意味では、環境として、美味しい水産物もあり、農産物もあり、酪農とかもあつたりもしますし、そういった意味で食としても安心感、安定感のある地域だと思います。なおかつすごいなと思うのは、ぼくは今年初めて子どもを連れてスキー場へ行ったんですよ。東京だと子どもが遊べるスキー場までは大体2時間半から3時間かかります。海に子どもを連れて遊びに行こうと思うと、まあ1時間半から2時間です。ぼくはマリンスポーツではサーフィンをやるので、海に行くことが多いんですけども、ちょっとした趣味でふつと行ってみたいなと思うとアクセスが圧倒的に広島は近いと思います。そういった意味で広島は、仕事、生活、楽しく生きる趣味、これがギュッとまとまっているなというイメージがありますね。

●湯崎知事

欲張りになろうと思ったら、広島はそれこそ全部いいものを得ることができる、楽しむ

ことができます。

○谷原

すべてがとってもコンビニエンスな距離にありますね。

●湯崎知事

サーフィンも日本海側に行けば出来ますよ。広島から浜田までは高速の浜田道を通れば、海に入るまでに2時間くらい。2時間もかからないかな。1時間半くらいで浜田まで行って、そこで着替えて30分みたいな。それくらいの感じだと思います。しかも、ぼくの感じでは千葉の海よりは波が高いです。

○谷原

そうですか日本海の荒波ですね。ぼくはサーフィンで日本海に行ったことがないんですよ。行ってみたいですね。

●湯崎知事

しかも砂浜が白い。真っ白です。砂浜のクオリティは非常に高いです。関東はどうしてもちょっと黒っぽい。そういう意味ではハワイでサーフィンしているような感じですよ。

○谷原

夏の日本海はそんな感じですか。それでご飯は和食が食べられる。いいことづくめですね。

●湯崎知事

有名なノドグロが食べられます。錦織選手の大好きなノドグロ。港で買ってさばいて、その場で刺身にして食べられる。

○谷原

広島は柑橘類もありますよね。ぼくは柑橘類が大好きなんです。家にもレモンを植えています。

●湯崎知事

レモンですか、すごいですね。柑橘類が大好きなんですか。

○谷原

大好きです。他にもスダチ、カボスを植えています。そういったものも広島は美味しいですよ。

●湯崎知事

県庁の前庭にもレモンが植えてあるんですよ。今度取れたらお送りします。

○谷原

お願いします。それだけ広島は日当たりのいい土地だということですね。

●湯崎知事

美味しいものも、楽しいものも、近くにあるということです。谷原さんがおっしゃっているわけですから、みなさん、もし楽しんでいないとしたら、ぜひ考えを改めて見直してください。

○谷原

身近にあると分からないかも知れないですよ。ぼくは遠くから見るからすごくよく分

かります。東京だと最近は広島辛いつけ麺とか、広島焼き（お好み焼き）がどんどん人気が出ています。八天堂のクリームパンは羽田空港でも見かけることがあります。

●湯崎知事

広島は通勤時間も短いし、欲張りライフをエンジョイする上では、本当にいいところだと思います。工夫や努力はありますが、ぜひみなさんと一緒に欲張りライフを満喫できるように、頑張りたいと思います。今日は本当に谷原さんにおいでいただいてよかったです。とっても欲張りだし、とってもナイスガイだし、一緒にいて、お話をさせていただいて、みなさんも良かったと本当に感じられたと思います。またテレビを見るのが楽しみです。

○谷原

ありがとうございます。

●湯崎知事

みなさん、もうすでに拍手をいただいています、もう一段大きな拍手を谷原さんをお願いします。

○谷原

ありがとうございます。今日は知事とお話できて、とても楽しかったです。

●湯崎知事

本当にありがとうございました。またぜひ広島においでいただいて、カープも十分楽しんでください。

○谷原

今年も優勝できるよう、ぼくは球場まで応援に来ますので、みなさま、今年も日本一を目指しましょう。

●湯崎知事

本当にありがとうございました。

○谷原

ありがとうございました。

●司会

谷原さん、湯崎知事、どうもありがとうございました。話がはずみました。どうぞ前の方へお進みください。カープの話で終わっちゃうかと思いましたがね。

○谷原

いやいや、まだまだカープの話なら全然できますよ。

●司会

みなさんも楽しいトーク、しっかりとお楽しみいただけましたでしょうか。谷原さん、昨日のカープは気持ちいい逆転劇で勝ちましたね。

○谷原

いやー、本当ですね。

●司会

速報です。カーブはソフトバンクと現在戦っておりますが 4 回を終わって、2 対 4 とリードを許しております。

●湯崎知事

2 対 4。まだ大丈夫です。

○谷原

まだ 4 回ですからね。逆転のカーブですからね。

●司会

昨日は気持ちいいお酒と小イワシを堪能されたということですね。

○谷原

安仁屋宗八さんも堪能いたしました。

●司会

お味はいかがでしたか。

○谷原

アニアックでしたね。今度そういう番組があるんですよ。安仁屋さんのアニアック倶楽部といいます。

●司会

そちらも楽しみにしていただきたいと思います。

○谷原

収録に参加しましたので、よかったら見てください。お願いいたします。

●司会

その他に広島に帰ってきたら必ずこれほっていう何か美味しいもの、広島名物はありますか。

○谷原

ぼくはお酒ですね。三原の酔心というお酒がすごく好きです。いつも飲むようにしています。

●司会

先ほどはお二人のパパトークもはずみましたが、今日は父の日ですね。

○谷原

そうですね。母の日と比べて影が薄いですよ、父の日って。

●湯崎知事

一昨日、バラをいただきました。広島県のバラ生産者の方が、父の日にバラを送ろうという取り組みをずっとやられています。みなさん今日は帰りにバラを買って差し上げてください。

○谷原

父の日は黄色いバラですよ。母の日は赤いカーネーション。

●司会

谷原家では、お子さんたちからパパに何かプレゼントがありますか。

○谷原

毎年、何かくれますね。幼稚園で父の日のためにダンボールで作った写真の額とか、そういうのをもらっています。去年は子どもたちがみんなで、紙パックの焼酎にメッセージを書いてくれました。

●司会

何よりですね。焼酎も進んじやいますね。

○谷原

そうですね。やっぱり今もまだ箱は取ってあります。

●司会

捨てられませんよね。湯崎家ではいかがですか。

●湯崎知事

うちも幼稚園でよく作ってきて、プレゼントしてくれます。今、カバンにつけているのは、一番下の子が小さいプラスチックに似顔絵を描いて「お父さん、ありがとう」と書いてくれたものです。1年前の父の日にももらいました。

●司会

お二人とも、でれでれの顔ですね。

●湯崎知事

捨てられないですよ、本当に。

●司会

これからもぜひパパとしての充実をお仕事にも生かしていただきまして、ご活躍をお祈りしております。では最後に谷原さん、皆さんへのメッセージと、今日のご感想を合わせてお願いできますでしょうか。

○谷原

今日はみなさま、お越しいただきありがとうございます。短い時間ですけど湯崎知事とお話ができ、みなさんと一緒に楽しく過ごせてとてもうれしく思っております。ぼくは、このところ番組の収録やカーブ関連のお仕事などで広島に呼んでいただく機会がすごく多くて、広島がどんどん近くなっている感じがします。三原のふるさと大使も、もう4年ぐらいやらせていただいております。ぼくは、広島を第2のふるさとと言ってもよろしいでしょうか。[拍手] ありがとうございます。これからも、もっともっと広島に来させていただいて、広島の魅力を東京、そして全世界にぼくの口で、「こんないいところがあるんだよ。こんな素敵などこなんだよ。こんな人がいるんだよ。こういう歴史があるんだよ」と伝えていけたらなと思っております。今日は本当にありがとうございます。

●司会

ありがとうございます。またたびたび帰って来てください。

○谷原

はい、帰って来たいと思います。

5. 閉会挨拶

●司会

では引き続き閉会に当たりまして湯崎知事よりみなさまにごあいさつをお願いします。

●湯崎知事

みなさん今日は本当に貴重な日曜日の午後のお時間をいただきありがとうございます。今日は谷原さんのお話、またお二人のよくばりさんのお話を聞いていただいて、価値があった、と思っただけのとうれしいです。最初がよくばりさんのお二人は、それぞれに努力はされていますが普通の方です。何か一步、こういうことをやってみよう和实践してみることで、実際にみなさんもよくばりさんになれると思います。それが積み重なって広島県が幸せいっぱいになっていくのだと思います。困難を抱えた方も普通の方も、それぞれに希望を持っていらっしゃいます。我々も行政として、その希望が実現できるように応援していきたいと考えています。みんなで素晴らしい広島県づくりができたと思いますので、引き続きよろしくをお願いします。今日はどうもありがとうございました。

●司会

谷原さん、そして湯崎知事、今日は楽しい欲張りトーク、どうもありがとうございました。今一度、大きな拍手をお送りください。ありがとうございました。さらに一層の大きな拍手でお送りください。また帰って来てください。ありがとうございました。

いやーため息が出るくらい素敵な方でしたね。みなさんのお気持ちはよく分かります。これからも色々なところで谷原さんのご活躍を楽しみにしていきたいと思っいます。以上を持ちまして『欲張りライフ懇談会』を終了いたします。みなさまもこれから、仕事も暮らしも、どちらも100%欲張って、充実した人生を歩んでいただければと思っいます。私もまたウクレレにチャレンジをいたしまして、しっかりと豊かな人生を毎日送っていけたらと思っっております。本日は長時間に渡りおつきあいをいただきまして、本当にありがとうございました。